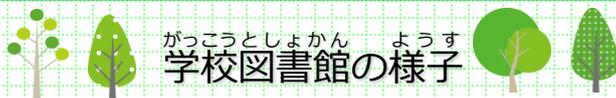


としまだより 2024年6月

上野台小学校 学校図書館支援員



もうすぐ雨の季節になりますね。この時季が嬉しいのはだれでしょう？草や花、かえる、かたつむり…実は図書支援員もです！梅雨は、いつもより学校図書館へ来てくれる人が増えるので、とても楽しみです。ぜひ顔を見せに来てくださいね！



がっこうとしよかん ようす 学校図書館の様子

5月は1年生に図書館の利用のついて「オリエンテーション」を行いました。1年生の貸出もはじまり、学校図書館がよりにぎわってきました。1年生の休み時間の利用はもう少し先になります。楽しみにしててくださいね。

4年生：百科事典の使い方や2年生：図鑑の使い方などの紹介をしました。これからもたくさん利用してくださいね！

どくしょかんそうぶん かだいとしよ 読書感想文 課題図書

読書感想文全国コンクールの課題図書が決まりました。本が届いたら、学年ごとにまわります。課題図書で応募しようかなという人は、ぜひ手に取ってみてくださいね。

★1・2年生

『アザラシのアニュー』

あずみ虫/作、童心社



タテゴトアザラシのお母さんが、赤ちゃんを産みました。名前はアニュー。おちちを飲んだり、泳ぎを習ったり、アニューはお母さんの元ですくすく育ちますが、ある日突然、お母さんはアニューを置いて、北極の海へ行ってしまいます。ひとりぼっちになったアニューは、自然の中でどのように生きていくのでしょうか。

『おちびさんじゃないよ』

マヤ・マイヤーズ/ぶん、ヘウオン・ユン/え、まえざわあきえ/やく、イマジネーション・プラス



クラスで一番背の低い、あたし。みんなに「ちび」だって言われて、何もできないみたいに決めつけられる。そんなある日、あたしより小さい(かもしれない)子が転入してきた。いじめっ子が赤ちゃん扱いしてからかっている。あたしは大きく息をすって、その場がしーんとなるぐらいの声で言ってやったんだ…！

『ごめんねでてこい』

ささきみお/作・絵、文研出版



大好きなおばあちゃん。なのに、つい「きらい！」って言っちゃった。おばあちゃんは「ごめんね」って言ってくれたのに、わたしは「いいよ」も「ごめんね」もずっと言えなくて…。そんなある日、おばあちゃんは救急車で運ばれて入院しちゃった。どうしよう、お見舞いになんか行けないよ。でも、このままでいいのかな…。

『どうやってできるの?チョコレート』

ひさかたチャイルド



大好きな人がたくさんいる、チョコレート。何からできているのかわっていますか？初めはどこにあって、どんな形のものから、どのように変わるのでしょ？写真や絵本の仕かけを使い、わかりやすく伝えます。なんだか、いいにおいがしてきそう…！

ねんせい
★3・4年生

『いつかの約束1945』

やまもと えつこ / 作、ひらさわ ともこ / 絵、いわさき しょう / 文、岩崎書店



「あたしは、関根すず。九さい！」…見かけはおばあちゃんだけれど、九さいだと言わずちゃんと出会った、みくとゆきな。この人は、いったい、どこのだれ!? 「もしかしたら、だれか心だけ入れかわっちゃったのかも」という、ゆきなのおもい付きから、そのだれかを探すため、3人は町を歩いてみることに…!

『さようならプラスチック・ストロー』

ディー・ロミート / 文、ズエ・チェン / 絵、千葉茂樹 / 訳、みつむら けい / 文、光村教育図書



大昔、困りごとから、ストローは誕生しました。植物の茎を使ったストローは、やがて紙製に。それから、もっとじょうぶなプラスチック製に…。その時々の「問題」が解決されて進化してきたのが、ストロー。だったら、今ある「地球環境問題」だって、きっと解決できるはず。さあ、みんなで考えてみよう!

ねんせい
★5・6年生

『ぼくはうそをついた』

にしむら すぐり / 作、なかじま のり / 絵、ポプラ社



リョウタは5年生の夏に初めておじいちゃんから、ヒロシマの原爆で亡くなったおじいちゃんのお兄さんの話を聞いた。一方、6年生のレイは、ひいおばあちゃんが今も、原爆で亡くした息子を探している姿に胸を痛め、力になりたいと思っている。家族を通して原爆に思いを寄せた時、リョウタとレイがとった行動、そしてついた「うそ」とは一。

『じゅげむの夏』

なつ
まが いっぺい / 作、マメイケダ / 絵、こうせいしゅつほんしゃ / 文、佼成出版社



保育園からずっと仲良しの4人組。その中の一人、かっちゃん、筋肉がだんだんやせていく「筋ジストロフィー」という病気で、最近歩くのが少し難しくなってきた。「4年生の夏休みを最高の夏休みにしよう!」最高というのはつまり冒険だ! というかっちゃんのひと言で、ぼくたちは山あいの村へ冒険に乗り出したー!

『聞いて聞いて! 音と耳のはなし』

き
たかつ おさむ / 文、えんどう もとよし / ぶん、ながさき くにこ / 絵、ふくしん かくしや / 文、福音館書店



どうして声や音が出るのだろうか? どうしてそれが聞こえて、「これは〇〇の音だ!」と判断できるのだろうか? そんな音や耳の仕組みを、わかりやすく教えてくれる絵本です。理科の世界にじっくりつかって、身の回りの不思議に耳を澄ませてみませんか?

『ドアのむこうの国へのパスポート』

く
トケ・ドラフト、リンデル・コムハート / 作、リンゼ・ファース / 絵、西村由美 / 訳、岩波書店



担任の先生の知り合いの物語作家と交流することになった、ぼくたち。その人の家には「コスモポリタン連邦」国へ続くというドアがあった。入国するため、風変わりなパスポートやビザ作りに取り組んだぼくたちが、扉の先で見つけたものは? そして、「コスモポリタン連邦」とは?

『図書館がくれたあ宝物』

たからもの
せんそうちゅう / 文、ケイト・アルバス / 作、えだの りん / 絵、徳間書店



戦争中のロンドン。両親のいない2人の兄と妹の3人兄妹は、戦火をのがれるため、また、「保護者」になってくれる人を見つけるため、疎開します。けれどもそこで待っていたのは、いじめ、空腹、寒さ、そして味方のいない日々。過酷な毎日、唯一の救いになったのは、村の図書館でした…。理不尽な環境の中でも希望を失わず支え合う兄妹は、真の「保護者」を見つけられるのでしょうか。心が温かくなる物語。

『海よ光れ! 3・11被災者を励ました学校新聞』

うみ ひか
たざき 五月 / 文、こくどしや / 文、国土社



東日本大震災直後に孤立した、岩手県山田町の大沢地区。そこでは、地域の人や学校の先生、子どもたちが協力して、避難生活をスタートさせました。大沢小学校伝統の学校新聞「海よ光れ!」に取り組んできた子どもたちの持つ団結力や前向きさは、避難所となった学校で過ごすみんなの力になりました。震災や津波を受けた当時の厳しい現実と、子どもたちのまっすぐな思いがまぶしく光るノンフィクション。